

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (5)
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	てしおちょうりつてしおちゅうがっこう 天塩町 立天塩中学校 (75 人) ほっかいどうてしおこうとうがっこう 北海道天塩高等学校 (145 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており, 小・中学校間で研究協議等が行われてきた。 ・平成 26 年度からは高等学校も協議会に参加し, 各教科指導に係る研究協議に加わっている。 ・これまで, 小・中学校, 高等学校で年 1 回の研究授業や研究協議を行い, 教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んでいる。	
所在地 (電話番号)	〒098-3312 北海道天塩郡天塩町字川口 5705 番地の 1 天塩町立天塩中学校 (電話番号 01632-2-1522) 〒098-3393 北海道天塩郡天塩町字川口 1464 番地の 4 北海道天塩高等学校 (電話番号 01632-2-1108)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://teshiojhs.jimdo.com/ (天塩町立天塩中学校) http://www.teshio.hokkaido-c.ed.jp/ (北海道天塩高等学校)				
研究のキーワード 「校種の垣根を越えた連携」, 「教科ミーティング」, 「乗り入れ授業 (出前授業)」, 「12 か年指導計画」, 「天塩町だからできること, 天塩町でなくてもできること」					
研究結果のポイント ○ 他校種との連携が活発になり, 教科ミーティング, 乗り入れ授業 (出前授業), 研究授業 (授業参観) を複数回実施するなど, 校種の垣根を越えた連携に取り組んでいる。 ○ 小・中・高の 12 年間を見据えた「12 か年指導計画」の作成を進めている。 ○ 他校種と連携し, 各教科で指導方法や評価方法の研究・研鑽に努めている。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

義務教育段階における学習状況を踏まえた, 高等学校における学習指導や学習評価の改善・充実, 及び系統性のある指導計画の作成に関する研究

(2) 研究主題設定の理由

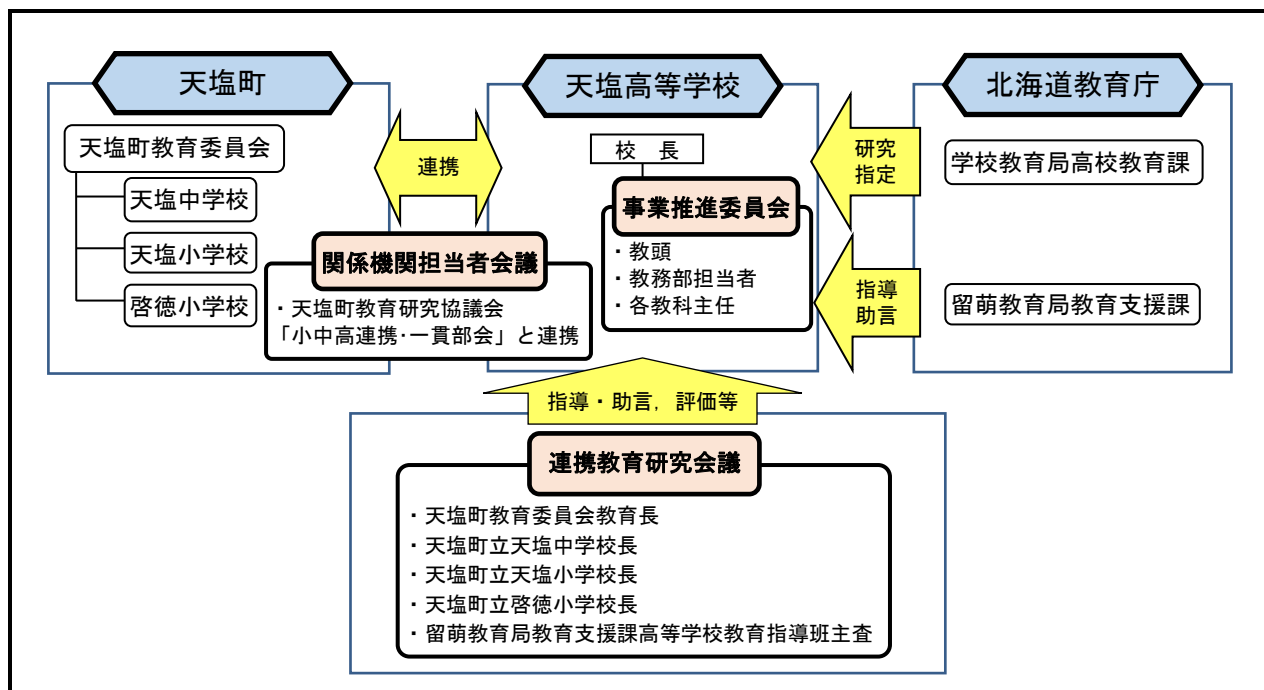
天塩町の中学校の卒業生の約 7 割が天塩高等学校に進学し, 全校生徒の約 4 割に上ることなど, 中学校と高等学校との結びつきが強いことから, 中・高等学校において, 生徒の確かな学力の向上, 主体的に学ぶ態度の育成及び学習習慣の定着を図るためには, 中・高等学校間で連絡会議等を持ち, 各学校の教育計画について情報交換を行ったり, 中・高等学校において発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成したりすることは効果的であると考え。

天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており, 小・中学校間で研究協議等が行われてきた。平成 26 年度からは高等学校も協議会に参加し, 各教科指導に係る研究協議に加わっている。現在は, 小・中・高等学校で年 1 回の研究授業や研究協議を行い, 教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んでいるところである。しかし, 各校種 1 回のみ

の実施であり、研究協議も当日の研究授業を対象としているなど、各校種の指導や評価の方法に関する情報共有や、系統性のある指導の在り方等についての話し合いは十分ではなかった。

そこで、これまでの成果に加え、高等学校が主体となって中学校における学習状況（指導方法、評価方法等）の実態を研究して、生徒の学習上の課題等を中学校と共有し、中・高の系統性を踏まえた指導及び評価の方法や指導計画の改善・充実を図ることが、校種間の円滑な接続を図る上で効果的であると考え、研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組

平成28年度	・天塩町教育研究協議会総会・第1回研修（4月12日） ・第1回関係機関担当者会議打合せ（6月3日） ・第1回事業推進委員会（6月7日） ・天塩町教育研究協議会第2回研修（6月17日） ・事前アンケート（教員）実施（6月17日） ・天塩町教育研究協議会第1回小中高連携・一貫教育推進部会全体会（7月21日） ・第2回関係機関担当者会議打合せ（10月5日） ・教育課程研究指定校事業（校種間連携・中高連携）公開研究会（10月13日） ・第2回事業推進委員会（11月7日） ・第3回関係機関担当者会議打合せ（11月14日） ・天塩中学校校内研究授業発表会（11月21日） ・中高一貫教育における先進校視察（広島県）（3月15日－17日）
--------	--

２ 研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

ア 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

- ・研究授業及び研究協議を通した、主体的・対話的で深い学びや、課題発見・解決のある学びの過程に視点を当てた教科指導等の工夫・改善

イ 「教科ミーティング」の実施

- ・「天塩町教育研究協議会」における教科研修への参加
- ・教科ごとの研究主題の設定
- ・義務教育段階での生徒の学習（指導方法、評価方法等）に係る研究

ウ 先進校の視察

- ・中・高連携の教育活動を推進している先進校の視察
- ・地域連携研修における先進校の視察報告

エ 連携教育研究会議の実施

- ・本事業の実施計画の検討及び実施
- ・実施した内容の改善・充実に向けた検証、評価

オ 小・中・高等学校での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施

- ・系統性のある指導計画の作成及び工夫・改善

(2) 具体的な研究活動

ア 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施について

- ・既存の組織である「天塩町教育研究協議会」と連携を図り、小学校、中学校、高等学校において研究授業及び研究協議を15回、高等学校から中学校に対する乗り入れ授業（出前授業）を7回、各学校種の教員が指導や評価方法について教科ごとに合同で研究する教科ミーティングを29回実施した。

イ 連携教育研究会議について

- ・4月12日 天塩町教育研究協議会 総会・第1回研修と合同実施
- ・6月17日 天塩町教育研究協議会 第2回研修と合同実施
- ・7月21日 天塩町教育研究協議会 第1回小・中・高連携・一貫教育推進部会と合同実施

ウ 小・中・高等学校での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施

- ・小・中・高の12年間を見据えた、系統的な教科指導を行えるよう、各教科において、各学校種の教員が連携して、12か年指導計画の作成に向けて取り組んでいる。

エ 先進校の視察について

3月15日－17日の日程で、広島県の中高一貫教育の推進校を視察する予定となっている。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 既存の組織である「天塩町教育研究協議会」の協力を受け、他校種との連携による取組を積極的に進めることができるようになった。本年度の具体的な取組としては、教科ミーティング、乗り入れ授業（出前授業）、研究授業（授業参観）、各教科の指導計画の作成、指導方法や評価方法の工夫・改善等があり、学校種間の積極的な連携に基づいて研究を進めてきた。
教科ミーティングについては、自校のシラバスや指導計画、評価に関わる作成物等の具体的な資料に基づいて話し合いを行った。また、本年度の実施回数は29回と、昨年度の5回から大きく増加し、教科間の結びつきが強まり、学校種間の連携体制が強化された。
乗り入れ授業（出前授業）については、中学生が高校での学習とのつながりを意識できる機会となったほか、中学校の教員が高校における教科指導の手法等について学ぶ機会ともなり、指導方法の工夫・改善につながった。
研究授業（授業参観）については、併せて、小・中・高の各学校種による研究協議を教科ごとに実施することで、学校種間の指導の系統性を意識した話し合いを進めることができた。
- 各教科の指導計画の作成に当たっては、学習活動を通して育成する資質・能力を設定することや、各学校種、各教科における学習指導要領を踏まえるとともに、学校種間の系統性を意識することなどを柱として、12か年の指導計画の作成に取り組んでいる。作成の対象とな

る領域の設定や進捗状況等は教科により若干異なっているものの、例えば、各接続のポイントごとに達成したい項目を設定したり、育成する具体の資質・能力を明示したりするなどして、各学校種の担当者が、全ての教科で、学校種間での引継ぎを意識した系統性のある指導に当たることができるよう、作成・整備を進めている。

- 指導方法や評価方法の工夫・改善については、各教科において、教科ミーティング、乗り入れ授業（出前授業）、研究授業（授業参観）等の機会を捉え、計画的に取り組んでいるところである。次年度は、これまでの各教科の研究の成果をとりまとめながら、天塩町の児童生徒の実態に沿って、全ての教科で活用可能な、12 か年を見据えた指導方法や評価方法の確立に向けて、引き続き、学校種間で連携を図って取り組んでいく。

（２）今後の取組

ア 研究結果を踏まえて

研究１年次の成果及び課題を踏まえ、研究２年次に向け、本校として重点的に取り組んでいく必要があると考えているテーマは、次の①～③となっている。

- ① 各教科における取組の成果と課題を踏まえた課題の再明確化
- ② 各教科の 12 か年指導計画の作成及び指導方法・評価方法の工夫・改善
- ③ 生徒アンケート等による状況の把握

①については、取組の成果や課題の把握・検証を進めることで、研究２年次に向けて、改めて課題を明確化することを主なねらいとしている。また、各教科によって課題が異なることから、各教科で明確化された課題についても共有を図っていく。

②については、次年度も本事業の柱として取り組むこととなる。各学校段階で求められる力や、12 年間を通して身に付けさせたい学習事項等を教科ごとに明確化することで、各学校種で共通認識をもち、系統的な教科指導に当たることができるようになるとともに、専門分野に関わらず全教科を担当することが多い小学校の教員の負担軽減につながることを期待される。

③については、生徒アンケート等による状況の把握を検討している。主なねらいは、①を踏まえて作成する 12 か年指導計画と指導方法・評価方法の工夫・改善に生かすことである。併せて、本事業での取組による生徒の変容の状況の把握も想定している。

イ 「関係指定事業研究協議会」を終えて

「平成 28 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会」において、研究１年次の成果と課題について報告した。また、研究協議では、参加者から多くの質問や意見をいただき、今後の研究の推進に向けて参考となる新たな視点を得ることができた。

文部科学省初等中等教育局教育課程課の大滝一登教科調査官からは、次年度に向けて、「生徒の変容が見て取れるような取組となるよう、研究内容を工夫すること」、「現在取り組んでいる教科間の連携のみにとどまることなく、各教育活動における連携も進めるなど、教育課程全体で連携の活性化を図っていくこと」等の御助言をいただいた。

連携型や併設型の中高一貫教育のように制度化された形ではない本校の中・高連携の取組は先行事例が少なく、手探りの場面も多い。しかし、この環境を強みとして捉えることで、「天塩町だからできること」を見出し、そのことが「天塩の子どもを天塩で育てる」ための実効策となっていくとともに、本事業の成果が「天塩町でなくてもできること」として、本道の他地域や他府県での取組にも資するものとなることを期待して、引き続き研究を推進していく。